

「高山中学校の高山流鏑馬伝承活動の取組」

1 学校名

肝付町立高山中学校

2 学年・人数

全校生徒 231 人，教職員 23 人（計 254 人）

3 日時・場所

令和 5 年 9 月中旬～10 月中旬 16:45～17:30（肝付町四十九所神社参道）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

高山 四十九所神社の流鏑馬

（こうやま しじゅうくしよじんじやのやぶさめ）

(2) 由来

本校では，例年 10 月第 3 週（今年度は国体の関係で第 4 週）に四十九所神社で奉納されている高山流鏑馬に綱持ちボランティアとして参加している。高山流鏑馬が行われる四十九所神社は伴兼行により永観 2 年（984 年）に創建されたと言われている。流鏑馬が行われるようになったのは，高山城の築城から約 100 年後からとされている。麓郷士の 15 歳の男子が継承してきたが，現在は保存会が中心となり中学 2 年生の男子を射手として選び，継承されている。

(3) 構成等

高山流鏑馬は，国家安泰・五穀豊穰・悪疫退散を祈願する年占いの行事である。流鏑馬当日，射手は凛々しく化粧をして綾藺笠（あやいがさ）をかぶり，直垂（ひたたれ）と行騰（むかばき）姿になる。そして，神馬とともに，3 本の的が立つ全長 330m の馬場を空走りする。その後，3 回疾走して合計 9 本の矢を放つ。9 本全て命中すると「それ以上」がなくなることから，あえて 1 本外すのがよいとされている。

5 保存会や地域との連携の具体

本校では，例年 1 年生で「流鏑馬講話」の時間を設定している。当日は，流鏑馬保存会と前年度の射手の生徒から流鏑馬にかける思い等を御講話いただいている。また，綱持ちボランティアの際には，やり方についてその都度御指導いただいている。また，後射手や的持ち，巫女，当日のアナウンスなど学校としてもできる限り協力している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

やぶさめ保存会とは日頃からこまめに連絡を取り合っている。また，綱持ちボランティアについては，2 学期に入ってすぐに，「綱持ちボランティア計画表」を作成し，クラスごとに参加できるよう事前に計画を立てるようにしている。部活動生については，部活動の休みの日に参加できるよう弾力的に運用し，全ての生徒が参加できるように計画を立てている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【綱持ちの様子】



【流鏝馬当日の様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【2年生生徒】放送係

始めはたくさん囁んだり，イントネーションが下手だったりして，「大丈夫かな？」と心配だったけど，二人で上手くできてよかったです。考晴さんも，本番とても格好良かったです。

【教職員】

今まで近くの学校に勤務しながら，1回も見たことがなかった流鏝馬であったが，今回練習始めの祈願祭から綱持ちや様々な準備，当日の動き等に参加して，伝統の重みを感じることができた。今後も，様々な形で900年の伝統を引き継ぐ手伝いをしていけたらと思う。

【保存会から】

中学校が手伝ってくれるのは助かるので，今後も是非お願いしたい。